

令和七年度

神奈川県公立高等学校入学者選抜学力検査問題

共通選抜 定時制の課程（追検査）

Ⅱ 国 語

注 意 事 項

- 1 開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題は **問四** まであり、1 ページから **13** ページに印刷されています。
- 3 解答用紙の決められた欄に解答しなさい。
- 4 マークシート方式により解答する場合は、選んだ番号の ○ の中を塗りつぶしなさい。
- 5 終了の合図があったら、すぐに解答をやめなさい。

受 検 番 号

番

問一 次の問いに答えなさい。

(ア) 次の a ～ d の各文中の——線をつけた漢字の読み方として最も適するものを、あとの 1 ～ 4 の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

- | | | | | | | | | | |
|---|-----------|----|-------|---|-------|---|------|---|--------|
| a | 興奮で声が震える。 | (1 | こうじん | 2 | きょうふん | 3 | こうふん | 4 | きょうじん) |
| b | 万民の幸福を願う。 | (1 | ばんみん | 2 | まんみん | 3 | ぜんいん | 4 | まんいん) |
| c | 漁村で暮らす。 | (1 | りようそん | 2 | ぎよそん | 3 | うおむら | 4 | りようむら) |
| d | 手を合わせて拝む。 | (1 | かが | 2 | あ | 3 | おが | 4 | つ) |

(イ) 次の a ～ d の各文中の——線をつけたカタカナを漢字に表したとき、その漢字と同じ漢字を含むものを、あとの 1 ～ 4 の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

- | | | | |
|---|---------------------|---|----------------------|
| a | 列車でカモツを運ぶ。 | 2 | この川はカコウの幅がとても広い。 |
| 1 | 無理をしてコウカなものを買う。 | 4 | 避難訓練を行うことでカジに備える。 |
| 3 | 外国のツウカで支払う。 | 2 | 読んだ本の感想をニッシに書き残す。 |
| b | 生徒総会でシカイを務める。 | 4 | 図書館のシシヨに本についてたずねる。 |
| 1 | 妹が成長してニユウシが生えかわる。 | 2 | 手続きをカンリヤクに行う。 |
| 3 | 学校で豚をシイクする。 | 4 | 自動車学校のキョウカンから指示を受ける。 |
| c | 要件をカンケツにまとめて話をする。 | 2 | 胸をはってドウドウと歩く。 |
| 1 | 新聞配達員からユウカンを受けとる。 | 4 | 会社のソンボウをかけて戦う。 |
| 3 | 部活動のカンプを務める。 | 2 | 手紙をお読みになりましたか。 |
| d | 遠心力のハタラきについて学ぶ。 | 4 | 昼食をおいしくいただきました。 |
| 1 | ロウドウの条件について会社と交渉する。 | 2 | まもなくお客様が当店に参ります。 |
| 3 | 外国とのボウエキを推進する。 | 4 | あなたのおっしゃるとおりだと思います。 |

(ウ) 次の各文のうち、敬語の使い方が適切でないものを一つ選び、その番号を答えなさい。

- | | |
|---|---------------------|
| 1 | 手紙をお読みになりましたか。 |
| 2 | 昼食をおいしくいただきました。 |
| 3 | まもなくお客様が当店に参ります。 |
| 4 | あなたのおっしゃるとおりだと思います。 |

(エ) 次の文章中の□に入れることわざとして最も適するものを、あとの 1 ～ 4 の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

部活動の対外試合で思うような結果が出ずにチームの雰囲気が悪くなり、部員間のいさかきも起きた。しかし、皆で話し合う中で目標に向けて一丸となることを確かめ合った結果、部員たちの結束が強くなった。まさに□だと思った。

- | | | | |
|---|---------|---|----------|
| 1 | 机上の空論 | 2 | 風前のともしび |
| 3 | 嵐の前の静けさ | 4 | 雨降って地固まる |

- (オ) 次の例文中の――線をつけた「よう」と同じ意味で用いられている「よう」を含む文を、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

例文 明日の朝は必ず早い時間に起きようと決意した。

- 1 明日にはおそらく雪は消えよう。
2 どうやら熱があるようだ。
3 出かけようとしたときに雨が降ってきた。
4 友だちが天使のように思えた。
- (カ) 次の俳句を説明したものとして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

(著作権上の都合により省略)

おおぐし あきら
大申 章

- 1 春の畑を懸命に耕していた人々が、山野に咲き誇っている桜の周りへ、一斉に集まっていく様子を「傾き」と表現することによって、あたたかい春の訪れを喜ぶ人々の思いの強さを描写している。
- 2 山の中の桜が農作業を始めた人に寄り添うように咲いている風景を通して、春のやさしい空気を表現しつつ、ひらがなを交えて「山ざくら」と表記することで、色彩のやわらかさを描写している。
- 3 春の始まりに黙々と畑仕事に従事する人を、大空に向かってまっすぐにそびえ立ちながら咲く山桜と対比させて描くことで、収穫という目標に向かって、懸命にとり組むことの尊さを描写している。
- 4 春の始めに土を耕している人々や枯れてしまった山桜に、傾きかけた日の光がやさしく当たっている様子を、やわらかい音の語を用いることで、句全体に穏やかな情緒を感じさせながら描写している。

問二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

小学生の「海斗^{かいと}」は、駅構内にあるだれでも使用できるピアノを弾いていた「青柳さん^{あおやぎ}」という年配の男性と出会い、レッスンを受けることになった。「青柳さん」の孫で、同学年の「花音^{かのん}」とコンサートに出ることになった「海斗」だが、なかなか上達せずレッスンを無断で休んでしまい、「青柳さん」から、なんのためにピアノを弾くのか答えが出るまでレッスンを中断するといわれた。

翌週末「海斗」は「青柳さん」の営むカフェを訪ねた。「青柳さん」はいなかったが、カフェにいた「花音」に、「青柳さん」とのこれまでの経緯について話してみた。

（著作権上の都合により省略）

（著作権上の都合により省略）

(著作権上の都合により省略)

(有本 ありもと 綾 あや「今日もピアノ・ピアノ」から。一部表記を改めたところがある。)

(ア) — 線1「海斗はもごもごと口の中で答えた。」とあるが、そのときの「海斗」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 「花音」の意見を冷静に受け止めながらも、ピアノを弾く理由を見つけれずに口ごもっている。
- 2 「花音」の指摘に反発しつつも、ピアノを弾く理由を考えていないことに気づかされ困惑している。
- 3 ピアノを弾く理由はないと決めつける「花音」への腹立たしさで、言葉をうまく発せずにいる。
- 4 ピアノを弾く理由を考えていないと優しく指摘した「花音」の意外な態度に、動揺している。

(イ) ―線2「……ごめんなさい。」とあるが、そのときの「花音」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「尚樹さん」の指摘に対して完全に納得できたわけではないが、「花音」が「海斗」を責めるのは道理に合わないということは理解しているため、素直になれない気持ちながらも謝っている。

2 「尚樹さん」が最初から「海斗」の味方をしているように感じて不満を持つ一方で、言い訳せずに練習していこうとする「海斗」の姿勢については受け入れることができたので、素直に謝っている。

3 練習をおろそかにした「海斗」のことを許すことはできなかったが、「尚樹さん」が「海斗」を責めるような指摘をしたことについては納得できず、とりあえず「尚樹さん」の代わりに謝っている。

4 「海斗」への態度について「尚樹さん」から強い口調で非難されたことに反発を覚えたが、「花音」へ素直に非を認める言葉を発した「海斗」の姿に戸惑い、振る舞い方がわからないまま謝っている。

(ウ) ―線3「スコップを動かしながら、尚樹さんがいう。」とあるが、そのときの「尚樹さん」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 気まづくなってしまう「花音」と「海斗」の雰囲気戸惑いつつも、庭仕事では二人に別行動をさせ、「海斗」が「花音」に敵意を向けつづけることがないように声をかけている。

2 「花音」から厳しく注意された「海斗」の落ち込んだ気持ちを感ずるなかで、「海斗」と二人きりで話せる機会を見つけたので、謝罪の言葉を待っている「花音」の思いを伝えている。

3 「花音」の言葉を受け入れられずに自分の非を認めない「海斗」に対して、「花音」とともに庭仕事をするを通して、自分の気持ちに素直になってほしいという思いを伝えている。

4 重苦しくなってしまった「花音」と「海斗」の間の空気を感じて、二人に別の庭仕事をさせるなかで、「花音」の前向きな気持ちとともに自分の「海斗」への感謝の気持ちを伝えている。

(エ) ―線4「海斗は思いきって、この間の出来事を打ちあげた。」とあるが、そのときの「海斗」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 ピアノを弾く理由を見つけれない自分に対して失望していたが、自然を感じながら「尚樹さん」と行った庭仕事を通して、皆のためにピアノを弾く覚悟ができたということを伝えている。

2 不安や重苦しい気持ちがありながらも、庭仕事のなかで感じられた自然や作業をつづける「尚樹さん」にうながされるように、心にかかえているなやみについて勇氣を出して話している。

3 自分への不満から庭仕事を始める気にならず、強い日差しを受けたことで疲労を感じていたが、楽しそうに作業する「尚樹さん」から勇氣をもらってためらいなくなやみをぶつけている。

4 すがすがしい気持ちで庭仕事を行うなかで自然を感じる余裕が出てきたことを自覚しながら、なんのためにピアノを弾くのかという疑問を、率直に「尚樹さん」に向けて投げかけている。

(オ) 線5「ぼくも、見放されたと思ってました。」とあるが、ここでの「海斗」の気持ちをふまえて、この部分を朗読するとき、どのように読むのがよいか。最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 「青柳さん」から見放されてしまったように感じたという経験を、「尚樹さん」も自分と同じようにしていたことへの驚きや共感が伝わるように読む。
- 2 子どもを信頼しない「青柳さん」によって苦しめられていたのは、「尚樹さん」も自分と同じだと気づいたことによる同情の気持ちが伝わるように読む。
- 3 おだやかな「青柳さん」の意外な一面を知り、見放されたのは「尚樹さん」も同じであり自分は孤独ではないと安心する気持ちが伝わるように読む。

- 4 「青柳さん」はすべてを思い通りにしたい人だから、素直でない自分や「尚樹さん」にそっけなくするのも仕方がないと冷めた思いが伝わるように読む。

(カ) 線6「そう考えて、海斗ははつとする。」とあるが、そのときの「海斗」を説明した次の文章中の I・II に入れる語句の組み合わせとして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

なんのためにピアノを弾いているのかという「青柳さん」からの問いかけに対してずっと答えられずにいたが、「尚樹さん」や「花音」の言葉で、Iと感じ、すべてが中途半端だったのは、何事もIIからだということに気づいた。

- | | |
|----------------------------|---------------------|
| 1 I 失敗を他人のせいにしてしまっているのだ | II 期待に応えようとしなかった |
| 2 I どんなことも長くつづけていくことが大切なのだ | II 自分の気持ちを大切にできなかった |
| 3 I 何をするにも自分の気持ちが大切なのだ | II まわりのせいにして過ごしていた |
| 4 I 自分の気持ちを置きざりにしてしまっているのだ | II まわりに見放されてしまった |

(キ) この文章について述べたものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 「青柳さん」からの課題に向きあえていなかった「海斗」が、「花音」とともに「尚樹さん」の過去の話をきくことにより、一生懸命になれる方法を見つける姿を、自然の描写を通して描いている。
- 2 「花音」の態度を許せなかった「海斗」が、「尚樹さん」からかつての「青柳さん」の話をきいたことで、まわりに流されずに相手を許すことの大切さを知っていく姿を、会話を中心に描いている。
- 3 「青柳さん」への言い訳を考えていた「海斗」が、ピアノ練習の再開をすすめる「花音」や「尚樹さん」の言葉で、努力をつづけることの大切さに気づく姿を、心情を表す言葉を用いて描いている。
- 4 「青柳さん」にいわれたことについて考えてもいなかった「海斗」が、「花音」や「尚樹さん」とのやりとりを通して、自分と向きあう大切さに気づく姿を、登場人物の内面に迫りつつ描いている。

問三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

（著作権上の都合により省略）

（著作権上の都合により省略）

(青柳 あおやぎ 雅文 まさふみ「疑う、知る、考える 哲学をはじめる」から。一部表記を改めたところがある。)

(ア) 本文中の A・B に入れる語の組み合わせとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- | | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|---|------|---|--------|
| 1 | A | もちろん | B | ところで | 2 | A | たとえば | B | しかしながら |
| 3 | A | しかし | B | 一方で | 4 | A | なぜなら | B | また |

(イ) —線1「こうしたもの」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 誰もが共通して納得できるような確実な根拠があり、個人的な期待や憶測を否定するようなもの。
- 2 ほかの誰かと共有された希望や、真実だと他者から認められた個人的な期待や憶測のようなもの。
- 3 明確ではない噂話や憶測などを除外した上で、自分だけが願っている希望や期待のようなもの。
- 4 本当であると言える根拠がない憶測や、個人的に心のなかで思っている希望や期待のようなもの。

(ウ) —線2「信じていることと知っていることを混同したまま、『知っている』と言ってしまうことがありうるのです。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 自分が思いついたことには客観的な根拠があるということとを、他者から容認されることを通して、自分の考えなのか他者の考えなのかの区別がつかなくなり、かえって混乱してしまうということ。
- 2 個人的に思っていることには、皆が共通して思っていることも含まれており、両者のちがいを確認しないまま、自分だけが思っていることを本当に知っていると判断してしまうということ。
- 3 頭に浮かんだ考えを、自分だけが思っていることか他者も思っていることか明確に区別できるにもかかわらず、区別しようとすることなく本当に知っていると思い込んでしまうということ。
- 4 個人的に思っていることは、本当に知っていることと大部分で一致しており、両者のちがいについて慎重に検討を重ねた上で、あえて区別する必要はないという結論を出してしまうということ。

(エ) —線3「独断というワナ」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 周りの意見を聞き入れることなく、自分の意見を強引に押し通そうとすると、意見が正しいかどうかを検証する機会を失うことになり、自分の意見を正しいと思えなくなる危険性があるということ。
- 2 自分の意見と他者の意見は異なっていると認識した上で、自分の主張を曲げずに強引に押し通してしまうことによって、周りから独りよがりなひとであると思われる、孤立してしまうということ。
- 3 周りの声に耳を傾けず根拠なく主張した意見や、皆も自分と同じ意見だと思い込んでいることを、他者にも通用する本当の答えだと勘ちがいして、独りよがりな考え方に陥ってしまうということ。
- 4 周りとの意見を調整しながら導き出した答えは、十分に検証がなされた疑う余地のないものと判断されることによって、ふたたび検証されることなく、皆に無条件に信じ込まれてしまうということ。

(オ) ―線4「しかし実際にはそうではありません。」とあるが、そのことについて筆者はどのように述べているか。それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 科学的に明らかにされて真実であるかのように認識されていた知識であっても、あらたな根拠や結果が示されることで、昔といまでは内容が変わることがあり、今後に変化していく可能性がある。

2 科学的な検討を繰り返す行いで、誤りであると否定できる知識であったとしても、昔から正しいものであると認識され続けることによって、誰もが納得できる普遍的な真実として残り続ける。

3 科学分野における知識は、根拠と言えるものが何もないまま普遍的な答えとされてきてしまったので、これからあらたに科学的な検証を行うことにより、過去の誤った知識を正せる可能性がある。

4 学校で教わる科学的な知識については、覚えたことを正確に伝えることが重視されているために、どの世代も同じ内容の知識をもつことになるが、覚えている知識の量は個人差が出ることもある。

(カ) ―線5「より本当に知っていることになる」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 時代に合わせた検証や反証がなされることを通して、それまで正しいとされてきたものが時間の経過とともに蓄積されていくことにより、正しいとされるものは今後が増え続けていくということ。

2 あらたな根拠が示されることによって、それまで正しいとされていたものは検証や反証をされることなく無効とされて、あらたな考え方がより正しいものであるとつねに認識されていくということ。

3 つねに検証や再計算がなされることで、元々本当だと言われていたことが改めて正しいものであるということが確認されて、元々知っていたことがより強固なものとして定着していくということ。

4 より本当だと言えるものが検証や反証により解明され、元々正しいとされていたものに對し修正や変更がなされることを通して、それまで知っていたことがより正確なものに変わっていくということ。

(キ) 本文について説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 個人的に信じていることと本当に知っていることとの共通点に注目した上で、より正確な知識は個人的な思いのなかでこそ生まれてくるということを、筆者の体験談を交えつつ述べている。

2 信じていることと知っていることの異なる点に注目し本当に知ることの難しさを指摘しながら、検証や反証を通して変わることのない真実を見つける条件について、順序だてて述べている。

3 信じていることをもとにして決めつけてしまうことの危険性についての話を通して、検証や反証の必要性を主張しながら、本当の意味で物事を知っていると伝えるための条件を述べている。

4 自分の心のなかで信じていることを追求していくことによって、決して揺らぐことのない真実や真相にたどりつく可能性を高めることができるということを、具体例を交えつつ述べている。

問四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

江戸時代の役人である「同心」が駕籠に乗って帰宅したところ、財布を駕籠に置き忘れたことに気づいた。駕籠はすでに去っており、途方に暮れていると、駕籠に忘れたはずの財布を「侍」が届けにきてくれた。「同心」は大いに喜び、「侍」をもてなそうとした。

「まづ休み給へ。」と色々引き留めしに、「金子返弁いたす上は我もいかなばかり喜ばし。」とて立ち帰るゆ

ゑ、名前など聞きしかど答へなくて帰りぬ。¹「さるにても命の親ともいふべき人をただ帰さんやうなし。」^(注)

然れども言はざればせんかたなし。」と、惣門の番する男を頼み侍の跡を付けさせけるが、和田倉内松平^(注)

下総守屋敷へ入りぬ。^アこれによつて惣門の番人、下総守門番に、「ただ今御屋敷へ入りし人は御家中にて^(家来)

家名何と申す人にや。」と尋ねければ、下総守門番にては何か怪しき儀とも心得けるや、「下郎の来て名前^(身分の低い者)

を聞くは答へんもむつかしき。」とや思ひけん、²知らざるよしにて一向取り合ひ申さざるゆゑ、せんかた^(都合が悪い)

なくて下郎は帰りて同心に語りしが、「さるにてもこのまま捨て置かんも便なし。」とて、翌日かの同心自^(都合が悪い)

身と、かの屋敷の門に至り、ぜひぜひ承りたき心にて、金子を落とせしことならびに拾ひ返して名を語ら^(返答したので)

ざる訳を明白に語りて尋ねけれど、かかる人心当たりなきよし、門番人挨拶なれば、これまたせんかたな^(二、三カ月)

くて帰りしが、遙か^ハ両三カ月過ぎてかの侍同心のもとへ来りてければ、夫婦もことの外に喜びて厚く礼を^(二、三カ月)

述べければ、かの侍の申しけるは、「我も今日は礼に参りたるなり。過ぎし頃主人の門へ^(以前)両度まで参りて^(二度)

我がことを尋ね給ふこと、ならびにあらまし話したまひしことを門番人より申し立てたるゆゑ、主人より^(事の経緯)

段々尋ねの上、外々の見及びのためとて褒美ありて加増を賜り、前々四十石の宛行へ二十石の加増これあ^(あれやこれやと)

るゆゑ、吹聴かたがた、礼に参りたり。」といひしまま、家名をせつに尋ね問ひしが語らずして帰りける^(言い広めながら)

よし。

〔「耳囊」から。〕

(注) 惣門＝屋敷の外囲いにあった大きな正門。

和田倉＝現在の東京都千代田区にあった地区。

松平下総守＝松平忠功(一七五六―一八三〇)。江戸時代中期の大名。

石＝武士に与えられる領地の単位。

宛行＝武士に与えられる給与。

(ア) 〰〰線ア―エの中から、他と主語が異なっているものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 ア 2 イ 3 ウ 4 エ

(イ) 〰線1「答へなくて帰りぬ。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 財布を拾ってくれた「侍」が、しつこく引き留められて不快な思いをして帰ったということ。
- 2 財布を持ってきてくれた「侍」が、休憩できたことへの感謝の思いを述べて帰ったということ。
- 3 財布を返してくれた「侍」が、お礼の品を受けとったにもかかわらずすぐに帰ったということ。
- 4 財布を届けてくれた「侍」が、喜びの気持ちだけを告げて名前も名乗らず帰ったということ。

(ウ) 〰線2「知らざるよしにて一向取り合ひ申さざる」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 「下総守門番」は「惣門の番人」に「侍」の名前を聞かれたが、不審に思ったのと同時に身分の低い者に教えるのはわずらわしいと思ったせいか、「侍」を知らないふりをして相手にしなかった。
- 2 「下総守門番」は「惣門の番人」に「侍」の名前を教えるように言われたが、身分の低そうな者に教えるのは危険であると判断して、あえて「侍」の偽りの名前を伝えることで適当にあしらった。
- 3 「下総守門番」は「惣門の番人」から「侍」の屋敷を見つけるように頼まれたが、「下総守門番」は関係のない別の屋敷の門番であったために、聞こえないふりをして取り合おうとしなかった。
- 4 「下総守門番」は「侍」の名前を「惣門の番人」に尋ねられたが、自分のような身分の低い者が高貴な人と言葉を交わすわけにはいかないと判断し、断固として「惣門の番人」と話さなかった。

(エ) 〰線3「礼に参りたり。」とあるが、その理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 「同心」が「侍」との間に起こったできごとを、「下総守門番」に語ったことによって、「侍」のといった行動が「主人」に認められることにつながり、「侍」は褒美をもらうことができたから。
- 2 「侍」が財布を届けたことを、「同心」が「下総守門番」に話したことで、「主人」に「侍」の名前を知ってもらったことに加え、「侍」が世間の人々から施しを受けることにつながったから。
- 3 「同心」が、自ら何度も繰り返して「主人」の屋敷を訪れて、「惣門の番人」に対して「侍」が財布を拾って届けたと話したおかげで、「侍」は「主人」から褒美をもらうことができたから。
- 4 財布を拾って届けた「侍」の名前を、「惣門の番人」が調べて「同心」に教えたことで、「侍」の名前が世間に知れわたった結果、「主人」が「侍」に褒美を与えることにつながったから。

(オ) 本文の内容と一致するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 財布を拾って届けたという事実を忘れていた「侍」は、「同心」が屋敷にやって来て直接このあらましを話してくれたために思い出すことができたが、最後まで自分の名前を教えなかった。
- 2 「同心」の財布を拾って届けた際に名乗らずに立ち去った「侍」は、褒美をもらうきっかけをつくってくれた「同心」の家を再び訪れた際にも名を聞かれたが、答えることなく帰っていった。
- 3 「侍」は「同心」が名を聞くために屋敷まで来た際に、「侍」の良いい行いが周囲に広く知れたるよに、あえて名乗らなかったことによって結果的に得をしたので、以降も名を名乗らなかった。
- 4 「侍」は財布を届けたという事実を隠していたが、「同心」が「侍」の名を周囲に聞いてまわったことで知られるようになり恥ずかしい思いをしたので、以降は決して名前を名乗らなくなった。

(問題は、これで終わりです。)

